

# 「トマトキバガ」について

トマトキバガ *Tuta absoluta* (Meyrick, 1917) は、南米原産の外来種で、2006年にスペインへの侵入が確認されて以降、ヨーロッパ、アフリカ、中央アメリカ、アジアに分布を拡大し、2021年5月までに台湾、中国、中央アジア諸国等の近隣地域でも発生が確認されています。

国内では、令和3年(2021年)10月に熊本県の施設栽培トマトで初めて、葉や果実への幼虫による食害が確認され、次いで同年12月に宮崎県でも同様の被害が確認され、いずれも特殊報が発出されました。令和4年(2022年)には、トマトキバガの侵入警戒調査のために設置したフェロモントラップにより、鹿児島県、大分県、福岡県、長崎県、愛媛県、山口県、広島県、岡山県、和歌山県で確認されています(令和4年11月現在)。これらの県では幼虫による農作物への被害は、今のところ確認されていないようです(長野県での発生は今のところ確認されていません)。

## 被害と診断

トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。食害部分は表面のみを残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。果実では、幼虫が侵入して内部組織を食害するため、果実表面に数mm程度のせん孔痕が生じるとともに、食害部分の腐敗が生じ果実品質が著しく低下し、収量減となります(図1)。

また、バレイショでは地上部を加害し、塊茎は直接加害しないとされてきたものの、近年、まれに塊茎への加害が報告されています。

なお、寄主作物として、ナス科野菜のトマト、タバコ、トウガラシ、ナスなどの他、マメ科のインゲンマメなどで報告があります。

## 発生生態(参考データ)

### (1) 成虫(図2)

開張約10mm、前翅長約5mm。下唇鬚(かしんしゅ)は発達して牙状となり、上方に湾曲します(キバガ類は牙状の下唇鬚を持つことから、そのように呼ばれています)。

### (2) 終齢幼虫

体長約8mm、体色は淡緑色～淡赤色で、頭部は淡褐色、前胸の背面後方に細い黒色横帯があります。

ジャガイモ・トマトなどナス科の作物にトマトキバガと同様の被害を出すジャガイモキバガ(ジャガイモガ)の幼虫に似ていますが、ジャガイモキバガは体長約10mm。前胸背面の黒色横帯は太くなるので区別できます。

(3) トマト、トウガラシ、ナスなどのナス科植物やインゲンマメなどで疑わしい被害を見つけたら、病害虫防除所又は最寄りの農業農村支援センターに相談してください。



図1 トマトキバガ幼虫による食害痕 (農林水産省 消費・安全局 提供)



図2 トマトキバガ成虫  
(農林水産省 消費・安全局 提供)

疑わしい被害等を見つけたら、最寄りの農業農村支援センター又は病虫害防除所までご連絡ください。  
長野県病虫害防除所 (東北信)TEL 026-248-6471 (中南信)TEL 0263-53-5642  
発行 長野県病虫害防除所 令和5年3月作成